

1. 実況上の着目点

① 台風第10号は、東海道沖を東進。台風本体の雨雲や、日本のはるか東に中心を持つ太平洋高気圧縁辺を回る下層暖湿気が流入し、東日本太平洋側では大気の状態が不安定となっており、雷を検知し1時間に30mmの激しい雨を解析。西～東日本ではこれまでの大雨で土砂災害や洪水災害の危険度が高まっている所がある。

② 500hPa-12℃以下の寒気を伴ったトラフに対応する低気圧がオホーツク海にあって、北上。前線が北～東日本へのびる。

前線や低気圧に向かって下層暖湿気が流入し、大気の状態が不安定となっており、東日本日本海側～北日本では1時間に20mmの強い雨を解析。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の台風は、2日にかけて北上、本州へ進み熱帯低気圧へ変わり、日本海で温帯低気圧化する。台風や熱帯低気圧周辺や1項①の高気圧縁辺を回り流入する下層暖湿気の影響で、雷を伴った非常に激しい雨が降り、大雨となる所がある。また、台風や熱帯低気圧周辺では、強い風が吹き、海上はうねりを伴い波が高くしけとなる所がある。東日本では2日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に厳重に警戒。西日本では2日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒。西～東日本では2日にかけて、強風や高波、落雷や竜巻などの激しい突風に注意。

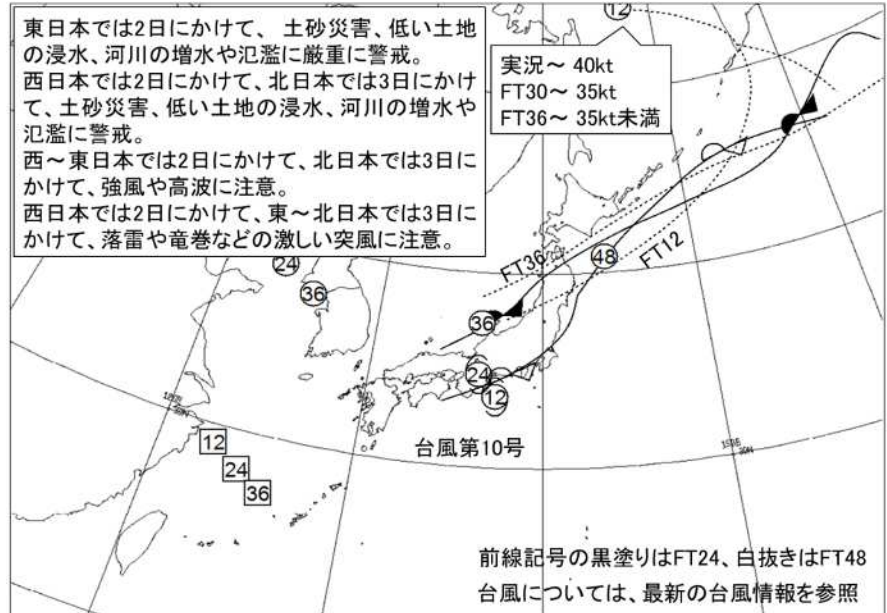
② 1項②のトラフに対応する低気圧はオホーツク海を北上、前線が本州付近にのびる。前線や低気圧に向かって流入する下層暖湿気の影響で、北日本では大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った激しい雨が降り大雨となる所がある。また、前線や低気圧周辺では気圧の傾きが大きくなり、強い風が吹き、波が高くなる所がある。北日本では、3日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒し、強風や高波、落雷や竜巻などの激しい突風に注意。

③ 3日は日本海に中心を持つ高気圧に日本付近は次第に覆われる。東日本では滞留する下層暖湿気と日射による昇温で大気の状態が不安定となる。東日本では3日は、落雷や突風、急な強い雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等] ①雨量(06時から24時間)：東海200、近畿150、関東甲信・伊豆諸島120mm。②波浪(明日まで)：東海4、北海道・東北・関東・伊豆諸島・近畿3m。③高潮(明日まで)：西～東日本では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「台風第10号に関する情報(総合情報)」を5時頃に発表予定。



主要じょう乱解説図